

令和7年度 一学期終業式 20250724

○今年も猛暑となりました。夏を猛暑というのも、当たり前になりつつあります。静岡では、私が生まれた昭和48年は、8月の平均気温が27.3度、昨年令和6年は、8月の平均気温が28.8度でした。50年ちょっとで、平均気温が1.5度上昇しているのですから、今年だけ暑く感じるのではなく、これからもこの暑さとなっていくのでしょう。

○そんな中、今年は、先生のアイディア、そして生徒の皆さんの協力で、マイコーディネートウィーク（MCW）を始めることができました。テレビニュース、新聞などで取り上げられ、皆さんがTPOを考えた上で、服装を自らの考えで、自主的な行動をとっていくという試みを長期にわたって行いました。暑さ対策もその一環にありますが、服装とはいえ、生活の中で、自分の行動に自分で責任を持つという教育的な試みは、大きな一歩を踏み出したと思います。そして、本日は、終業式、きっとTPOを踏まえ、しっかりとした服装をしているものと信じています。

○皆さん、あらためて、1学期はいかがだったでしょうか。満足いった人、全くだめだった人、多少不満はあるが頑張った人、評価は色々であったと思います。先ほど、多くの表彰をさせてもらったことは、本当にうれしく思います。みなさん、この4か月を互いに、ほめてあげてください。

私自身は、70点くらいでした。週に1回は授業や部活動を見に回るなど、いくつかやろうと決めたことがありましたが、7割くらいしかできていませんでした。

た。中でも、先生たち、生徒の皆さんと、もっともっと対話をしたかったけど、私のコミュニケーションスキル不足で、話ができなかった。それらをマイナスすると自己評価は、70点くらいでした。しかし、先生たち、生徒の皆さんの様子を見る機会は作ることはできました。授業の様子、運動部の練習、文化部の活動、生徒会活動、図書委員会の活動、北嶺祭文化の部と、体育の部。分校とのコラボ。運動部では、多くの大会にも行かせてもらい、気持ちの良い挨拶をしてくれて、心からの頑張りを見せてもらいました。文化部の活動も、作品や日常の活動など見せてもらいましたし、もっと色々な文化的活動があって良いと思いました。富士宮北高校の生徒たちにとっては、授業はもちろんですが、部活動も含めて、学校の教育活動が行われていると、あらためて思いました。だからこそ、生徒エージェンシーが「育てられる」と強く思いました。生徒エージェンシーとは、世界的に言われ始めている言葉ですが、変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動することを言います。学校でもそれにつながる教育が求められていますが、私は、これは、教科などの勉強で、机に向かったり、自分で教科書を開いて勉強したりするだけでは得られないと思ってきました。もちろん、探究の学び方を身につけたり、キャリアを真剣に考えたりすることもそれにつながりますが、本校は、そこに、部活動に懸命に取り組むことや、個人の研究活動や個人的な趣味の世界、ひょっとしたら、家計を助けるためアルバイトをしている生徒まで、トータルで、総合的に、先生と生徒が取り組んでいる。これこそが、本当に求められている学びではないかと信じるに至って

います。皆さんは、今一生懸命なこと、なんでもいいんです、なくても一生懸命生きているそれを大切に思っていてほしい。

さて、

○始業式で「色」の話をしました。それをホームページにメモで掲載したら、そのことについてとても面白いことを教えてくれる方がいました。

○「色」（いろ）の話の続編です。世代として知らない生徒の方が多いかもしれませんが、松田聖子という歌手の「赤いスイートピー」という曲があります。この曲のことです。スイートピーというのは、花ですね。花言葉は門出や優しい思い出などで、このスイートピーというのは、淡い色が多いそうです。いわゆる薄い色のことです。

○そして、この赤いスイートピーという曲について、これを歌っていた松田聖子さんが大好きだったある農家さんが何度も何度も聞いていたら、ふと、「赤いスイートピー」はどこにあるのだろうかという疑問が湧きました。あれ、鮮やかな赤いスイートピーがない・・・と。

○そこで、この農家さん、きっと、松田聖子さんのことが好きだったのでしょうが、「赤いスイートピーを生み出すことはできるのか」と、課題を立てて、研究に研究を重ねて、18年の年月をかけて、深紅の赤のスイートピーにたどり着いたそうです。

○探究したいと思うのは、どのタイミングで、どうスイッチが入るかわかりま

せん。例えば、今から学校を１周回ってきて、気に入ったものを１枚写真に収めてきてくださいといった場合、似た写真はあっても、ほぼ全員が違う写真を持ってきます。なぜか、好奇心は人によって異なるからですね。当たり前なのに、案外気が付きません。農家さんの松田聖子さんへの興味が、深紅の赤いスイートピーを生み出したといえます。こんなお話でした。

○この話、その方から教えていただいた日、では、１８年かけて、どうやって作り出すのか、とても気になりました。次は、「種」（たね）の話です。

○植物は、どうやって新たな品種を生み出すのか、いわゆる交配（こうはい）するのか。農業に詳しい先生に聞いてみました。難しいことは色々ありましたが、当たり前かもしれませんが、とにかく清潔な場所で、雌しべに、花粉をつけて、それを育てます。しかし、今日作業したら、明日には、わかるものではありません。花が枯れ、種となり、次の世代になって少しわかる、今はひょっとしたら、遺伝子である程度わかるのかもしれませんが、一番大切なことは、「待つこと」だそうです。信じて待つ、何度も何度も同じ作業を繰り返す。そうやって、ある種ができ、徐々に変化が生まれていくということです。

○赤いスイートピーの１８年、まあそれくらいかかるだろうと笑っているのです。何か変化を生み出す、「種」というのは、「待つこと」が本当に大切なのだと私は、思いました。高校生活は、わずか３年ですが、その中でも色々な種を蒔き

続けないといけないと学校に戻って考えました。

○この夏休みは、1年生は「これからの高校生活の最も大事な種を作る時期」となります。2年生は「大事な種に改良を加えて、自分にとって大切に種に育て始める時期」ではないかと思います。そして、3年生は「生まれてきた種に水をやり肥料をやり育てる時期」または、「まだまだ自分の種を生み出すために、種のバージョンアップする時期」かもしれません。自分の大切な「種」をしっかり見つめられる夏にしてもらいたいと思います。

○最後に本日、皆さんの笑顔を見ながらお話しできなくて悲しいけれど、「声」を届けているということで、「声」(こえ)について話してまとめたい。私は、この1学期、いくつか印象に残ったこととして、生徒の声です。例えば、体育の授業の際の、声。おなかからしっかりと声を出している。先日の野球応援の際の、互いに励まし合って、声出そうぜと声掛けする、声。あいさつはもちろんですが、表情も合わせて、相手に対してちょうど良い、声。授業の中での、少し遠慮がちな声、そして、時々、教室棟から、校長室のある管理棟に聞こえてくる、生徒の歌声。

○最近では、大人ですら、パッと声を出すことができません。ネットでの発信やメールが発達すればするほど、声に出すコミュニケーションができない風潮は広

がりつつあります。しっかり声に出すというのは、実は責任を伴います。ですから、日常的にしっかりと声に出すということを心がけている学校というのは、とても教育的であると私は思います。校歌も頑張っしてほしい。

一方で、声にならない声もあることも理解しないといけません。声に出すというのは、責任を伴うといいましたが、声に出せない声もあるでしょう。

○最近、1冊の本をいただき、読み出しています。特別支援教育の教師に伝えたい思い、「ぼくっち鳩（はと）」チラシの裏のメッセージという、先生たちの自主制作の本です。この第1章の1に、昭和33年の子どもの話が出てきます。昭和33年は戦後間もなくです。当時、外国人は、戦後非常に貧しくなった日本人に対して、チョコレートやビスケットをまいて、子どもたちがそれを拾っていくということがありました。学校では、このように拾うことはやめるよう指導していたようです。そして、偶然、静岡県清水港に外国人観光客の船が来たときに、この本に出てくる先生が見ている生徒たちの前に、チョコレートが巻かれました、最初は、誰も拾う人はいなかったのですが、一人の小学生がやはり拾いました。そこには大人も子どもも100人以上、もっと多くの人たちがいたそうですが、生徒たちは、「あーー」と大きな声を出したようです。その声で、我に返り、拾ったお菓子を外国人に投げ返すことが起こったと、当時を振り返っていました。ここには、子どもが子どもの誇りを声を出し始めることで守ったことについて、書かれていました。

先ほど、「声」と言いましたが、「声」には、言葉になる声と、言葉にならない声があると、私は思いました。声に出すというのは、実に、難しいのです。たとえ、日常的な授業のあいさつや、掛け声などでも同じです。

○繰り返しますが、夏休みに入ります。夏休みは、部活動や課題などがあるとは思いますが、おそらく、自分の時間も増えますし、自分と対話する時間も増えます。そして、高校卒業後などを考える上では、この自分に与えられた時間というのは、とても大切なものとなります。

それぞれの学年、クラスによって、いまやるべきことはさまざまでしょう。よく先生方の話を聞きながら、先ほどの種を生み出すためにも、この夏休みが終わった時には、自分のことや、この夏に体験したことをしっかりと、「声」に出して語れるように頑張ってもらいたいと思っています。

Ⅰ学期の終業式は、この夏、自分のことをしっかりと声に出して語れるような夏休みにしてほしいと願って話を終えたいと思います。Ⅰ学期いい時間となりましたね、夏休みも健康と交通事故には絶対に気をつけて、充実したものにしてください。以上で終わります。